

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

もっとほかに聞いたかったんですけども、最後に、産業振興策について、1点だけお聞きします。
新たな産業を興すとしたら、行政としては何が可能性があると考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

やはり当市の特色がありますヒスイや真柏、また、少量ですが、品質の高いお米など、ここにかない特徴を生かした産業が、理想ではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

松尾議員。

○12番（松尾徹郎君）

地味ですけども、やっぱり6次産業化とか、そういったものを、地域の食材を活用しての産業を興して、継続的に支援してほしいなというふうに思います。

ちょっとボリュームがあって、なかなかちょっとご質問することができなかつたんですけども、今後、行政改革をきちっとして、そういったところから資金を捻出して、様々な事業に振り分けていってほしいということをお願いして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（保坂 悟君）

以上で、松尾議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を11時半といたします。

〈午前11時20分 休憩〉

〈午前11時30分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

田原 実です。よろしく申し上げます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

質問1、明日の医療を守る、糸魚川総合病院の持続と救急医療対応について。

糸魚川市の著しい人口減少による様々な影響が顕著になっています。特に医療、教育、産業のダウンサイジングはさらに人口減少に拍車をかけるものと心配しています。

その一方、10年後の人口3万人を見据え、まちづくりの主役である市民が意識と行動を変えていくことで、糸魚川で夢を持ち、幸せに暮らせることを示し実践することは、市長行政と議会議員の責務と考えます。

その認識の下、糸魚川市の最重要課題であるこれからの地域医療確保について、以下質問します。

- (1) 公的な病院から公立病院へ。人口減少の影響が著しい糸魚川総合病院の持続と救急医療対応について伺います。
- (2) 新潟県地域医療構想、富山県に接することを生かし連携する広域医療圏、県外大学・医療機関との連携による医療体制づくりについて伺います。
- (3) 糸魚川総合病院への様々な市民の声と行政対応、今後、診療科が減ることへの市民理解（医療教育）の進め方について伺います。
- (4) 子供の医療、ワクチン接種による影響と健康被害、高額療養費制度引き上げの影響、独り暮らし高齢者への医療対応について伺います。

質問2、まちの再生と発展、米田市政の様々な課題と継承について。

まちの再生と発展のため、米田市長が取り組んだ様々な課題、そこから現れた問題とその対応、及び継承と市長責任について、以下質問します。

- (1) 糸魚川ジオパークの成果と市民理解について伺います。
- (2) 北陸新幹線糸魚川駅開業の成果と糸魚川市発展について伺います。市民からは、駅前を人が歩いていない、花一つ咲かせる取組がない、などの指摘をいただいています。
- (3) 北アルプス日本海広域観光連携の成果と大糸線の存続・活用について伺います。市民からは、JR西日本の方針、自治体連携や公民連携、糸魚川へのインバウンド誘客はどうなっているのかなどの指摘をいただいています。
- (4) (仮称)糸魚川市子育て支援複合施設建設の当初の目的からの変更、被災者・住民理解と合意形成、DBO方式のメリットと弊害、屋内遊戯子育て施設運営外部委託、年間5,000万円を10年間支払う契約の是非について伺います。
- (5) 旧能生町から引き継ぎ、施設改修と運営に多額の税金を費やしてきた権現荘の譲渡ならぬ譲与契約後、市長の決断で9,000万円を支出しました。その効果の確認について伺います。
- (6) 市内中学校において確認されたいじめと教育委員会の対応について伺います。
- (7) 糸魚川市議会ハラスメント防止条例の制定と市役所職員に対するアンケート調査についての受止めを伺います。

以上、1回目の質問です。

さて、私、田原 実は、合併前の糸魚川市議会から一般質問を続けてまいりましたが、今回で通算87回目の一般質問。そのうち78回の質問において、米田市長から、毎回毎回誠意あるご答弁

を頂戴しました。その真摯なご対応に、改めて感謝申し上げる次第です。ありがとうございました。

今回の一般質問も、市が直面する重要課題の解決に向けて待ったなし、そして、先送りや責任逃れなしの行政対応について伺うものです。具体的なご答弁を期待しています。

これが、糸魚川市政を、失礼しました、米田市政を引き継ぐ方、あるいは新しい市政を起こしていく方、さらに未来の糸魚川市を担う若い皆さんへのメッセージとなれば幸いです。よろしく願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、糸魚川総合病院は厳しい経営状況からの脱却を目指し、最大限の自助努力による経営改善に取り組んでいるところであり、市といたしましては、県と連携して必要な支援を行い、救急医療を含めた基幹病院としての機能を維持できるよう取り組んでおります。

2 点目につきましては、地域医療体制の確保と、より質の高い医療提供のため、富山大学と魅力ある病院づくりを進めるとともに、地域医療構想の中で体制づくりに取り組んでまいります。

3 点目につきましては、地域医療構想での検討状況を踏まえ、適切な時期に説明会を開催し、市民の皆様の声をお聞きするなど、丁寧に周知をしております。

4 点目につきましては、子供及び高齢者医療は、現状の体制維持に努めてまいります。高額療養費の上限額引上げの影響により、がん患者等、長期治療を必要とされる方の経済的負担、受診控えが懸念されております。

また、感染症予防を目的に、必要なワクチンの接種勧奨に取り組んでおりますが、健康被害は3年度の新型コロナワクチン接種による1件のみであり、その後報告は受けておりません。

2 番目の 1 点目につきましては、ジオパーク学習等による市民の地域理解と郷土愛の向上が主な成果であると考えております。

2 点目につきましては、北陸新幹線開業により、市内観光や近隣市町村への玄関口として、機能しているものと捉えております。

3 点目につきましては、北アルプスエリアの広域での観光PR等の実施による相乗効果のほか、セールスコール等の実施により、インバウンドなどの誘客につながっているものと捉えております。

4 点目につきましては、復興まちづくり計画の目的を引き継ぎつつ会議を重ね、駅北まちづくり戦略を策定し、公民連携によるDBO方式によって決定した業者による整備を進めているものであります。

5 点目につきましては、施設修繕に係る経費の一部を補助金として支出することとし、上限額を9,000万円といたしましたものであります。

なお、宿泊事業開始は、7年4月末とお聞きいたしております。

6 点目につきましては、6年6月にいじめ問題専門委員会からの調査結果報告を受け、学校と連携しながら、再発防止策を講じております。

また、現在実施中の追加調査は、3月に調査結果がまとまる予定であり、さらなる再発防止に向

け、対応してまいります。

7点目につきましては、条例の確実な遵守と、アンケートの継続的な実施をお願いいたしたいものでございます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくをお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

では、地域医療体制について、2回目の質問です。

市長答弁が不足と思うところを再質問し、担当課より詳細をお答えいただきますが、国や県との交渉の状況や明日の医療確保の方針は、米田市長からお答えいただきたく、よろしくお祈いします。

医療の再質問は、（4）子供の医療、ワクチン接種による健康被害への対応についてからお願いいたします。

今後、子供の数が減っていく中で、子供の医療は、いわゆるダウンサイジングに向かわざるを得ないと心配していますが、現在ある子供の医療が、5年後、10年後にどうなるのか。市内で診療や対応できない場合に、親子はどこへ行くことになるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市内には、まだ比較的小児科の医療機関があるかというふうには思っております。

ただ、そうした小児科の医療機関が、今後、また対応できないということになれば、市外へという場合もあり得るかとは思っておりますが、現状では、市内の小児科医の皆様への対応で当面していただけるものというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

子供の医療対応が不足していると、それは、そのまま人口減少につながるものではないでしょうか。糸魚川市の今後の対応を、誰がどのように考えていくのでしょうか。今ある市の計画でよいのか、人口減少グラフと課題を掲げたものだけでは駄目でしょう。具体的な子供の医療対応を示す必要があると思います。市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

現在も連携させていただいたり、情報交換をさせていただく中で、やはり糸魚川になくてはならない診療科というのは必要だということの中で対応させていただいてるわけでごさいます、小児科につきましても、そのような形で我々は支援をしながら、誘致させていただいた部分がございますし、これからの中でそういう現象が起きるとい形になれば、そのときに、また医師会だとか、やはりまた糸魚川総合病院と連携しながら、対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

次に、ワクチン接種による健康被害について伺います。

先日、ある県会議員のSNSで、HPVワクチン接種のキャッチアップを勧めるものがありました。これは、市内のワクチンの影響を心配する市民の指摘で分かったことですが、確かにHPVワクチン接種のキャッチアップを勧める以上は、被害がなかったことの検証を抜いては、勧められません。この点、市長の見解を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

HPVワクチンの関係につきましては、国の統計資料で副反応の症状、特に重篤な症状の発生率ということでは、ワクチンの種類によりますけれども1万人当たりとして5人、もしくは2人といった形の数値が出ております。これまで当市においてHPVワクチンを接種した方で、こういった重篤な症状が出たという例については、お聞きはしておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ないということですけども、どのような形で調査されましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

予防接種に関しましては、HPVワクチンにかかわらず、副反応等の疑いの症状が出た場合には、報告いただくというような形になっております。そういった形で副反応の疑いがあったものを統計しまして、国のほうに情報収集して、そういったワクチンのリスクについて、国のほうで判断したりしていただいているというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

同様に、コロナ予防ワクチンについても、接種の数、それから副作用、被害の状況を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺 忍君登壇〕

○市民部長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

今年度におきます新型コロナワクチンの接種の状況でございますけれども、1月末現在までの状況でありまして、接種者は2,943人で、接種率は18.7%でございます。

なお、健康被害については、今年度については受けておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市民から私に資料提供があり、DVDをお借りして、副作用や被害に遭われた方の状況を知りました。ほかの議員にも資料や情報の提供があったと聞いています。これは、理事者をはじめ、市民部の複数の課にまたがる課題です。この際、市民部長から市民の健康と市の責任について、見解を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺 忍君登壇〕

○市民部長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

私のほうにも、市民の方からワクチン等の症状例等の本もお貸しいただいております、それも課内にて共有しているところでございます。そのようなメリット・デメリットにつきましては、市民の皆様には十分周知をする中で、ワクチン接種については個人の判断で行っていただきたいというふうを考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今後、庁内でどのような会議を持って、また市民にどのように周知していくか、お考えがあれば、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺 忍君登壇〕

○市民部長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

当然そのような症例等が出てまいれば、情報共有は努めてまいりますし、庁内にてその後の対応、また二度と起こさないような方法につきまして、庁内会議等で検討してまいりたいと思っておりますし、あわせて事実については、市民の皆様にも周知をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

では、（1）に戻りまして、糸魚川総合病院の持続と救急医療対応について、再質問します。

課題は、厚生連糸魚川総合病院を公立病院へと移行させて、市民に必要な診療科を残す。何より救急医療体制を糸魚川に残すということでした。また、その財源をどのように確保していくかということでした。

前回、12月議会一般質問での私のまとめを、いま一度申し上げます。

仮に、上越圏域での医療の再編が進んだ先のことですが、糸魚川にも救急やカテーテルとか手術ができるようなものを残していくことが前提となります。

まず、予算的な話ですが、普通交付税では算定基準が決まっているので、特別交付税を活用して、早く動いて、取りあえずでも糸魚川総合病院の危機的状況への対応を行い、市民に必要な医療を確保ということで、市民に理解していただきながら、地域医療構想を進めて、県からの支援を受けて、基幹病院の分院を造ってもらうよう、早く進めていく。また、糸魚川の医療を市民が支えるためにどうすべきかを市民それぞれで考え、行動していただく。場合によっては、税のアップがあっても、それは命を支えるための税であることを理解してもらうことが必要と私は思います。3月議会一般質問で、また伺いますというものでした。よろしいでしょうか。

その後、3か月が経過しましたが、どうなりましたか、米田市長から具体的にお答え願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院を残すためにということですが、公立病院化というご提案もございます。そんな中で、今現在は、厚生連が運営をいただいているわけですので、今は厚生連を可能な限り支え続けるというスタンスで、糸魚川総合病院を守ってまいります。いずれ、もしそのような、維持ができない、継続経営ができないような事態が起きた場合には、当然、公立化ということも視野に入れなくてはならないというふうに考えておりますが、現時点では、厚生連病院を支えるというスタンスに変わりはありません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

誰が支えるんですか。糸魚川市がみんな支えるわけですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

2月頭の知事の会見にもございましたが、県と一緒に支えていきたい。また、国からの財政措置、そういった支援も受けながら支えてまいりたいというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

新潟県の地域医療構想、上越圏域の病院再編の話は、進んでいるものということで、そのところが具体的にどうなるかというのは、まだ県のほうが示さないからという理由でずっと足踏みしてるわけですよ。けども、市民にしてみたら、糸魚川総合病院に救急医療体制を残してほしいから、やれ県だとか厚生連だとかじゃなくて、糸魚川総合病院を残して、市民の命を守ってほしいということ言ってるわけですよ。随分その感じと離れてますよね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院を残すという考え方については、決して変わってなくて、その方針には全く変わりはありません。それで、市民の方にどのようにお伝えしていくかということですが、今地域医療構想がなかなか話が進んでいかなくて、まとまらないものですから、市民の皆様にお伝えする機会というのがなかなか設けられておりませんが、今後、示せる段階になりましたら、できる限り周知に努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

何か上越の病院再編の話が全く進んでないように取れるんですよね。もう不安でしょうがないですよ。

では、聞きます。

仮にです。糸魚川総合病院を公立化して、それで、そこに救急医療体制を残していくんだといった場合には、これは上越に基幹病院を置いて、糸魚川には分院的なものを置いていくという形になるんだという説明を既に聞いているわけですよね。そうはならないのか、ならないとすればどうなるのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

公立病院の分院化の話につきましては、一つの考え方でございまして、決して、それでもう方向が決まってるというものではございません。

それで、今後、今、上越医療圏の中で話し合われているのは、中核病院を1つ上越圏域に造って、その周りの病院は地域包括ケアシステムを支える病院になる。そういった中で、1つの運営主体で運営することが、医師や看護師の派遣を可能にする仕組みだというふうに今検討しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

進まないですね。何なんでしょう、この進まないということ。

では、ちょっと別の切り口から伺いますね。

そもそも上越医療圏域の病院再編についてを糸魚川市、上越市、妙高市の3市長、行政で協議してあるとは思いますが、上越3市での意見統一やその調整は、水面下でもできていると考えてよろしいでしょうか。後になって、上越3市で話がまとまらないじゃ駄目なんですよ。もうそういったことはね、進んでいなければいけないと私は思います。これ、米田市長の最後の仕事ですよ。次に持ち越せない仕事です。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

今いろいろと質問いただきましたが、上越圏域の医療構想については、まだ各首長にそういったものが、まだ下りてきてない段階であります。要するに、上越圏域の各病院の病院長と、今そうい

った協議を進めている状況だと思っております。それが、大枠の中で今課長が述べたような地域包括病院的なものが我々糸魚川市、また妙高市において設置され、そして、基幹病院は上越に設置されるという形であります。

内容については、やはり各市において、必要な診療科目は残していかなくちゃいけないという形の中で、救急医療についても、糸魚川は、救急医療が必要じゃないのかというところが今上がっている段階で、それも決定してるわけではございません。その辺がまだ決定してない中の状況でございますので、推測で我々は、なかなか皆様方に説明するという状況にはなっておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

地域医療構想ね、糸魚川の医療がどうなるのか、全然進んでなくて、答弁はもう後退するばかりですよ。市民の不安は増すばかりではないでしょうかね。これから、この上越圏域の病院再編で、市民がどのようにそれを理解していくかという大事な時期なのに、行政側では進めていないというのは、これ本当心配ですよ。

では、次の質問に行きます。

県が望ましいとする糸魚川総合病院の存続の形は、糸魚川市民が望む形と必ずしも一緒にならないというふうに私は見えています。理由は、人口の割合にしては大きな経費がかかることです。つまり、市民が望むことを全て盛り込むと、大きな経費がかかるということから難しいのではないかと考えています。なので、県が方向性を出す、出さないということも一つの言い訳にはなるかもしれませんが、糸魚川市としては、いかに財源を見つけてくるかということが大事な仕事になってくるのではないかと。これは、市長の最優先の仕事であり、厚生連云々を言い訳にできる状況ではないんだというふうに私は考えます。このことは、市長は十分お分かりになってると思いますけども、市長はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

田原議員におかれましては、かなり推測的な話を断定的に申し上げられておるわけでございますが、この地域医療構想は、県が示してくるわけではございません。医療構想は、地域の中でしっかりと、県も交え、そして医療関係者、そして最終的にはやはり市民の合意が必要になってくるわけでありまして。そういう中で、それをやはり我々糸魚川市としては、しっかりと必要な医療施設は設置させていただきたいし、どういう形でいくのか、まだまだ課長がお答えしたように、糸魚川総合病院は、どういう形でなっていくのか、そういうものは全然一切定まっているわけではございません。具体的に話もあったわけではございませんので、そういった推測でお話をされると、あたかもそれがもう決定したかのように聞こえる部分がございますが、そこまでいってないのでご理解いただきたいと思います。

○議長（保坂 悟君）

ここで、昼食時限のため。

〔「1つだけやらせてください」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

推測推測と言われたのでね、質問続けますけども、推測じゃないですよ、これまでの様々なところでの説明を聞いて、私は、自分なりの考えを申し上げているわけですから、話すり替えないでください。

休憩にしてください。

○議長（保坂 悟君）

ここで、昼食事業のため、暫時休憩いたします。

再開を午後1時といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

では、通告書に基づき、質問を続けます。

この先の計画で、病院の運営主体と糸魚川市の関係性が決まれば、税金からの支出がありますが、どのような形で財政支援していくのか、市民の関心は高いです。国からの交付税はどうなりますか。病院への交付税措置について、教えていただきたいと思います。これは、事前に担当課長にお伝えしてあります。よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今現在は、公的病院、厚生連の運営の病院ですので、特別交付税を頂いていて、それを病院のほうの財政支援に活用させていただいております。公立病院になりますと普通交付税措置というのがございますので、公立病院になった場合には、普通交付税も頂いて、それを支援に充てるということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

国の資料に、令和6年度の地方公営企業繰出金についての通知というものがあります。中に、病院事業とあって、病院の建設改良に要する経費、一般会計が負担するための経費とあります。また、不採算地区病院の運営経費、リハビリテーション医療経費、そして救急医療の確保に要する経費と様々あるわけですが、こういった資料を見て、糸魚川総合病院の公立化での対応を検討してありますか。また、身近なところの公立病院、富山県朝日町のあさひ総合病院、黒部市の黒部市民病院の事例を調査して、備えておくべきではないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

国の特別交付税措置、普通交付税措置については、こちらも何度か実際に総務省にお問い合わせしたりしたこともございますし、勉強させていただいております。お隣、あさひ総合病院、そのまたお隣の黒部市民病院についても、公立病院として、しっかりと運営されてますので、今後、どのような形で運営することが適当なのかということで、勉強させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ここから、質問の2です。糸魚川市民も利用されており、また、糸魚川総合病院に比べて、あさひ総合病院や黒部市民病院がよいとの評価が、市民の中にあります。とすれば、その原因・理由というものを考えなければならないと思い、私なりにヒアリングしてきました。

今回、私は、富山県に接することを生かし、連携する広域医療圏による医療体制づくりと質問を通告してありますが、あさひ、黒部、それぞれの病院の診療科や病床数について、救急対応や高度医療対応、専門の診療科、そして糸魚川から行っている方がどのくらい、また、何で行ってるかについてくらい調査しておくべきではないかと思いますが、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

両病院とも、全く調査してないわけではなくて、私なりに、それなりに勉強させていただいておるつもりでございます。黒部市民病院におかれましては、黒部市が特に力を入れられていて、大き

な地元の企業のバックアップもあって、その企業が来られた医師に対する研修費にかなりの費用を負担してくださっているというお話も聞いたことがございますので、医師にとって非常に魅力ある病院なんだろうなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

なるほど、そうだと思います。

私の手元の資料でございます。あさひ総合病院の実績と運営について書かれております。そして、過去5年間の手術の件数、患者数、救急患者数、救急搬送件数、延べ入院患者数、延べ外来患者数そして、経常収支比率、医業収支比率、累積欠損金比率、職員給与費、事業収益比率などが載っております。こういったことを知って、学んでおくべきではないかと考えますが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

後ほど詳しい数字は分析させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

こちらの資料を紹介したいと思います。

あさひ町総合病院、高齢者医療の先進モデル病院を目指して、とあります。地域包括ケアシステムの支援体制、通所リハビリテーション、認知症院内デイ「ひだまり」、在宅介護支援センター、訪問診療とあります。糸魚川総合病院を公立化し、運営を見直すときの参考になるのが、経営改善検討委員会ですが、この構成委員が大学経営学部の教授、富山大学附属病院長、同じく脳神経外科教授ほか医師会と議会などの関係者で、助言者が富山県厚生部医務課となっています。医師・看護師等確保に向けた取組は14項目あり、平成29年度に看護学生修学資金貸与制度、月額5万円を10万円にアップ、令和3年度の薬学生修学資金貸与制度の創設、貸与月額12万円などが掲載されています。

その他、力を入れているのが寄附講座で、朝日・地域医療支援学講座、目的は、あさひ総合病院で不足する診療部門の診療を富山大学附属病院の医師が担うことにより、地域医療の充実に貢献する。地域医療を通して、将来に向けた地域包括ケアを担う医療人材を育成する。富山大学附属病院とあさひ総合病院で、病院機能の分化を踏まえた患者の紹介、逆紹介の円滑化を図るとあります。

後で資料をご覧くださいとしまして、私が注目したのが、病院事業会計資本金の額の減少という説明で、令和3年3月議会において、病院事業の資本金を減資し、利益剰余金に振り替えることにより、マイナス計上していた累積欠損金を解消した。令和元年度の累積欠損金約43億5,000万円を

解消した。資本金と累積欠損金を解消することにより、実態に応じた病院の財政状況を住民に示すとともに、経営改善に取り組みながら持続可能な病院運営を推進するとあります。この実態に応じた病院の財政状況を住民に示すとともに、経営改善に取り組みながら、持続可能な病院運営を推進すると。ここが大事なんでしょう。そしてこのことが、医師、看護師確保に向けた取組にとって重要なことと記載されています。糸魚川総合病院を公立病院と考えていくときにも重要なことだと思います。経営改善が必要とか言いますが、様々な改革の積み重ねで、病院が存続しているということだと思います。後でまた触れますが、人口の少ない地方の小さな公立病院運営の実態、一度ヒアリングに行かれてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

両病院、特にあさひ総合病院の今お話ございましたが、その内容について、私どものほうもしつかり事前に勉強する中で、一度伺ってみて、お話を聞いてみたらいいんじゃないかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

お願いします。

公立病院の事例をもう一つ紹介します。

黒部市民病院経営強化プラン（令和5年度から令和9年度）、これは表題のとおり、経営強化のために何をいつまでにどうするのかを議会、市民に示したものです。

参考となると思うところ、項目をピックアップして申し上げます。

新川医療圏の状況についてとありまして、医療圏の人口動態は2015年から2020年で人口減少率が5.28%、富山県全体では2.96%、そして将来推計でも2015年から2045年、人口減少の見込みが33.6%、富山県全体で24.4%と、県内の中でも人口減少が急速に進んでいます。これは、上越圏域も同じ傾向と言えます。

それで、新川医療圏の公的な病院の病床数が814床、その内訳は、黒部市民病院405床、あさひ総合病院109床、富山労災病院300床、令和4年度7月における将来見込みを黒部市民病院405床、あさひ総合病院109床、富山労災病院263床とし、新川圏域地域医療構想の必要病床数を精神病床を除いて1,210床、高度急性期86床、急性期375床、回復期346床、慢性期403床としています。

解説を読みますと、新川医療圏の医療機能は、急性期及び慢性期が過剰の一方で、高度急性期及び回復期が不足している。黒部市民病院は、急性期病院としての医療需要に対応することで、医療圏の住民やほかの医療機関から信頼を得ており、医療圏の中核病院として、今後もこの役割を維持していくことが基本となるが、地域医療構想における将来見込みのほか、患者数の推移、医師、看

護師等医療資源の充足を踏まえ、病床数及び病床機能の再編を検討している。具体的には、病床数を現在の一般病床405床から340床程度に再編することが現実的と考えており、今後、検討を進める。また、医療機能としては、医療圏内で、高度急性期に対応できるのは、富山労災病院の5床しかなく、病院再編を進める中で、高度急性期に対応するハイケアユニットへの展開を検討しているとあります。

この辺り、糸魚川市として知っておくべきこともあるのではないかと思います、申し上げました。なぜなら、将来の上越の医療体制では受け入れてもらえない糸魚川市民が、黒部市民病院のベッドに横たわることもあるかもしれないと想像し、心配をするからです。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今でも黒部市民病院のほうに糸魚川の市民の方がお世話になっている案件もあろうかというふうに捉えております。特に出産、分娩に当たっては、糸魚川総合病院で、一時産科での分娩がストップするような事態になりましたが、一昨年11月から新しい医師が着任され、新たにまた分娩が再開しております。ですが、あくまでもお一人での分娩対応になりますので、出産できる方というのは、普通に分娩できる方というふうに限られていて、リスクの高い方というのは、黒部市民病院なり上越のほうの病院に紹介されて、出産されているということでございますので、そういった事情も踏まえて、近隣の病院の状況をしっかりと把握してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

そこで、伺うんですけども、これからも黒部市民病院にお願いしないといけない医療というのは、何があるかということです。分娩のことは、今お答えいただきました。ほかにどんなものがあるとお考えでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院で対応できない医療、3次救急の部分については、今でも県立中央病院のほうに主に搬送されているというふうに思っています。そういった中で、気象の状況であったり、交通事情があったりして、場合によっては黒部市民病院のほうにお願いしなければいけないということも出てくるのではないかとこのように捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

富山、それから朝日、この医療連携の形をさらにはっきりすることが、市民の安心につながると
思います。

糸魚川は、富山県境にあり、富山大学からの医療人材派遣なしには地域医療は考えられません。
なのに、今はまだ、新潟県医療構想や上越圏域の病院再編で、糸魚川市民に必要な医療がどのくら
い確保されていくのか分からず、心配であります。糸魚川の弱み、糸魚川に住むことのデメリット
となっていきます。これを解決したい。なので、地理的なことを逆手に取って、糸魚川が医療の隙
間ではなくて、医療が重層するような、上越圏と新川圏の広域の医療圏域、位置的に糸魚川が真ん
中の医療計画をつくって、国に示して支援を取り付けることが、これから必要となると考え、質問
いたしました。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

医師の派遣一つに取りましても、富山大学附属病院からの医師派遣を主に受けております。そん
な中で、富山大学の附属病院の病院長からは、糸魚川総合病院は、富山大学がしっかりと面倒を見
ると。そういった中で、上越地域にも派遣が広がっているという捉え方をしておりますので、糸魚
川は、ある意味、そういった意味での中心になっているということでございます。

先ほど来お話のある、あさひ総合病院も、黒部市民病院も、富山大学からの医師派遣を受けてお
って、みんな同じように、寄附講座を使ったりして、必要な診療科の維持に努めているところでご
ざいます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

それをさらに強化する形、はっきりとしていったらいいんじゃないかと思えます。

では、質問の3の市民の声と行政対応、市民理解（医療教育）について、再質問します。

最近、糸魚川総合病院に寄せられている市民の声、残念な苦情など、把握されていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私ども市長へのご意見直通便でも市民の声をいただき、聞いておりますし、そのほかにも糸魚川
総合病院のほうに直接声が寄せられて、そのお話もお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

最近、市民グループの依頼で開催された糸魚川市の出前講座、糸魚川市地域医療の現状と課題について、私も出席しました。担当課からは、お忙しいところご対応いただき、ありがとうございました。

さて、そこでの参加者からの質疑や意見は、どのようなものがあったか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

うちの課長補佐の田中のほうから、説明に伺わせていただきました。それで、私も報告を受けましたが、医師の養成資金の貸与事業について、そんな制度があるというのは知らなかった。もっと周知してほしいですとか、ドクターヘリの活用をもっとしてほしいとか、救急医療に対してのご不安の声からだと思うんですけども、そんなお話があったり、地域医療構想について、もっと具体的な医療機関の役割分担等について、もっと詳しく説明してほしいですとか、糸魚川総合病院への支援はこのままずっと続けていくのかと。そういったようなご意見があったというふうに伺っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

参加者とのコミュニケーションが図られ、医療問題への市民の理解は進んだとお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

まだまだ十分だとは思っておりませんが、今後こういったことを続けていくことによって、市民の皆様にご理解いただけるよう努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

一方、医療を守ってきた医療従事者の皆さんの思いというものに、行政は、議会は寄り添っていると言えるのか、これが、今回の質問の大きなテーマです。糸魚川総合病院の病院長が、あるいは看護部長が、市民団体の会に出向いて、病院存続のためのお話や願いをして回っています。市民のためにそこまでやっていただいているんです。なのに、糸魚川総合病院への市民の声、苦言や苦情

聞くたびに、私は胸が痛みます。医療行政って何だろう。市民の命を守るというのは何なのだろう。今の糸魚川で、誰がそれを考えてくれているのかと。医療を使命として、市民のために一生懸命働き続けるナースたち、この方たちをもっと守ってあげるべきではないかと私は思いますけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

私自身も、糸魚川総合病院の職員の皆さん、それぞれのお立場で非常によくやっただいていてというふうに思っています。

それで、12月頭に私ども市長が、糸魚川総合病院の職員の皆さんを前に激励のメッセージをお話しされています。そのお話を受けて、非常に病院職員の皆さんが、感動したということをおっしゃっていただいたのが印象に残っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

議会においてはどうでしょう。地域医療や病院運営に詳しいと思われる議員が、経費を削減しろとか、研修医の受入れが負担だとか、病院施設を解体しろとか、12月議会の一般質問を聞いていて、私は、随分乱暴なことを言っているのではないかと受け止めました。

でも、本当にそうですか。この先の糸魚川総合病院で、何の経費を削減しますか。冷暖房費を節約しますか。古くなった病院の水回りの設備をそのまま使い続けますか。人件費を削りますか。経営が厳しい中で、経営側にいる皆さんは、ボーナスもらってないって言うんですよ、どうなんでしょうか。

それと、今後、市民の望む医療、高齢者医療を実現するとき、病院施設や研修医は、必要となると私は思います。12月に答弁した課長に改めて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私、12月で答弁させていただいたのは、今、糸魚川総合病院で経営が非常に厳しい中で、不採算の部分で足を引っ張っている部分という、実際に稼働していない旧なでこの部分であったり、6年4月からですかね、ダウンサイジングによって病床数が減らされて、5病棟が閉鎖になっています。そういった建物が残っている。または、そこに係る土地の借地料を払っているという部分は、ただのマイナス部分になってしまうので、そこは負担になっているという意味でお答えしたものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

糸魚川が厳しい地域医療を守るために、これまで樋口病院長、そして山岸病院長が、身を削ってやっってるってことをご理解していただいているのかなと思い、この際、お話しさせていただきました。

18年前の姫川病院の突然の閉院以来、私は市民の命を守るために医療の質問を続けてまいりました。これからも、糸魚川の医療は厳しいと思います。よろしく願いいたします。

終わります。

○議長（保坂 悟君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を1時35分といたします。

〈午後1時25分 休憩〉

〈午後1時35分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原洋子議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原洋子議員。〔6番 田原洋子君登壇〕

○6番（田原洋子君）

こんにちは。田原洋子です。手話で、おはよう、こんにちはと言えるように、皆さんが、自分の名前を手話でできる日が来ればいいなと思っております。

では、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、学校での健康診断を受けられない児童生徒の対応について。

健康診断は、学校教育法と学校保健安全法で定められており、学校保健安全法施行規則では「毎学年6月30日までに行うものとする。ただし、疾病その他やむを得ない事由によって当該期日に健康診断を受けることのできなかつた者に対しては、その事由のなくなった後、速やかに健康診断を行うものとする」と定められています。

しかし不登校の児童生徒は、学校での健康診断が受けられず、健康リスクが見逃されている場合があるのではないのでしょうか。

全国ニュースでは虫歯を放置したために口腔崩壊を起こしたり、背骨が曲がる側彎症が進行したために長時間座ってられないなど、生活に影響が出ている事例も報告されています。

健康診断を学校で受けられなかった場合、医療機関に出向くことになりますが、健康診断は医療保険の対象外で、費用の負担が大きくなります。学校で行われている健康診断は、子供の健康の保